

勉強法を身に付けるには？

茗溪塾塾長 長谷誠基

8月に入り、非常に暑い日々が続いています。塾では夏期講習が真っ最中で、朝から夜まで各学年の授業や演習が続いています。また、夏期講習ではどの学年も毎日テストがあり、順位表が掲示されるとみんなその前に集まり、「やった！〇位だった！」「国語の点数やべっ！」などのような会話がされています。あるとき、「先生、なんで毎日テストばっかあるの？」と言ってきた生徒がいました。子供たちからすれば、テストは嫌なものです。しかし、テストこそ勉強してきたことを身につけるのに一番良い方法です。

授業を受けて、新しい単元を教わったり、問題の解説を受けたりしたときは、聞いているみんなが、「なるほど。そうやって解くのか。」と理解します。でも家に帰ってから、宿題をやってみようとする、「あれ？どうやって解くんだっけ？」という状態になることがあります。一緒に勉強を見ていた保護者の方が「授業何受けてきたの？ちゃんと話聞いてたの？」とつい言うてしまうのはこんなときではないでしょうか？

こういうケースは学校の進度よりも早く進む、中学受験や中学生の特進クラスの勉強で起こります。学校の授業では一つの単元に時間をかけてじっくりと演習を積んでいくので、わからない、解けないというケースは少なくなります。進度の早い学習の場合、何週間もかけて身につけるといわけにはいきません。そういうレベルの高い学習の場合は、「テストに向けての学習」→「テスト」→「間違い直し」という学習が重要になります。

ここで大切なのは初めの「テストに向けての学習」をやってから「テスト」を受けるとことです。普段の学習ではもしかしたら、なかなかこの「テストに向けての学習」ができないかもしれませんが、自分で「ここが出るかもしれない」とか、「これが出たらやばいな」などと考えながら勉強し、実際にやってみて、出来なかったところをやり直して身につける。入試まで続けていく学習法はこれです。受験学年で行う「夏期短期集中特訓」はこれを体得するためのものになっています。

「夏期短期集中特訓」は授業も大切ですが、午後にあるトレーニンググループが最も重要な意味を持ちます。その日の授業で行ったものが翌日にテストされるので、トレーニンググループではそのテストに向けての演習を自分で行います。わからないものは先生にもう一度聞いたり、自分でもう一度解きなおしたりしながら、どうすれば身につくのか考えて勉強します。これが、2学期以降の志望校別特訓や過去問演習でさらにレベルを上げながら行うことで、自分の志望校の偏差値に近づいていきます。

ここでこの勉強法を身につけることが今後の実力アップのカギになります。特訓に参加する先生たちはこれに一番気を使って指導していきます。